

# メルハバトルコ

令和5年 11月  
イスタンブル日本人学校  
本間 和寛

なかのくちにししょうがっこう  
中之口西小学校のみなさん、Merhaba! (メルハバ) トルコ語で「こんにちは」という意味です。トルコのイスタンブル日本人学校で働いている本間和寛です。全校遠足や作品展おつかれさまでした！みなさんの活躍を遠くから応援しています！

さて、今回の「メルハバ！トルコ」は「トルコの今」についてお伝えします！少し難しいことも出てくるかもしれませんが、できるだけ分かりやすくお伝えしますので、読んでくれるとうれしいです。

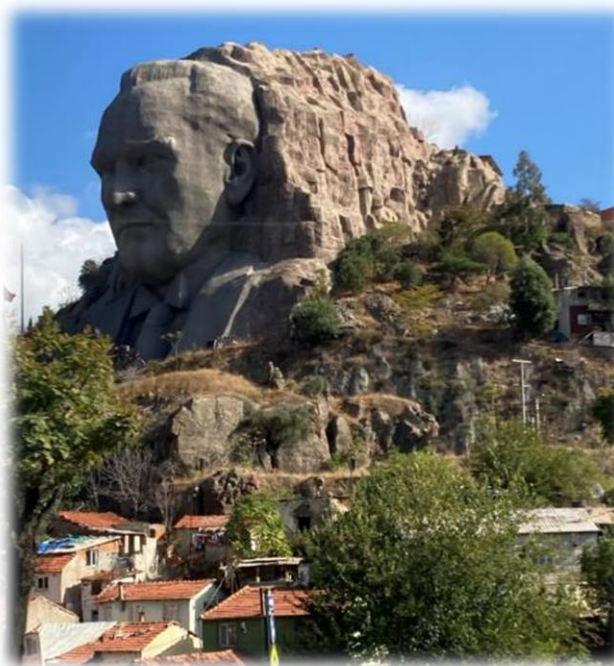
## きょうわこくけんこく しゅうねん トルコ共和国建国100周年



ムスタファ・ケマル・アタテュルク



今年はトルコ共和国建国100周年を迎えました。トルコという名前の国になって100年がたったということですが、国としては若い気がしますよね。トルコになる前は「オスマン帝国」という国でした。100年前に何が起きたのか、できるだけシンプルに説明します。1914年にヨーロッパを中心とした大きな戦争が起ると、オスマン帝国はドイツの仲間になって戦いますが、負けてしまいます。そしてイギリスやフランス、ギリシャなど、戦争に勝った方の国に領土を奪われそうになります。これに対して「ムスタファ・ケマル・アタテュルク」は、新しい政府を作って、ヨーロッパの強い国の言いなりになっているオスマン帝国を倒し、自分たちの領土を守ろうと戦いを起こします。1922年にギリシャ軍からイズミルという地域をとりもどしたことをきっかけに、国土のほとんどをとりもどすことに成功しました。左の巨大な胸像は、それを記念してイズミルにあります。そして、同じく1922年にオスマン帝国を倒し、100年前の1923年10月29日にトルコ共和国を作りました。





きょうわこくけんこく しゅうねんきねんしきてん  
トルコ共和国建国100周年記念式典

けんこく しゅうねん きねん さまざま ばしょ もよお  
建国100周年を記念して、トルコの様々な場所で催  
し物がありました。



びょう はか せいふ えら ひと おお  
アタテュルクが廟（お墓）は政府の偉い人や、多く  
の国民、観光客が訪れ、100周年を祝いました。



よる なんぱつ はなび あ  
夜になると、何発もの花火が上がり、ボ  
スボラス海峡には、ドローンを使用して  
トルコ国旗やお祝いの言葉などが映し出さ  
れました。



しゅうねん きねん び ちか  
100周年記念日が近くなると、トルコのいたるところに国旗が飾られ、町が赤く染まりました。



うえ しゃしん きねん び どうじつ まち ようす  
上の写真は記念日当日の街の様子で  
す。なんとなく赤いものを身にまとって  
いる人が多くいる印象を受けました。

ひだり しゃしん どうじつ こうこう  
左の写真は当日のイスタンブール空港  
の様子です。公共施設だけでなく、様々  
なお店や住宅に国旗やアタテュルクの旗  
が飾られ、お祝いの雰囲気につま  
まれました。





# アタテュルク記念日 きねんび



けんこくきねんび ちが がつ にち 11月10日は「アタテュルク記念日」です。前のページで紹介した「ムスタファ・ケマル・アタテュルク」は 1938年 ねん 11月10日 にち に亡くなりました。彼の功績 こうせき を称え、彼が亡くなった11月10日の午前9時5分にはトルコ全土でサイレンが鳴り響き、アタテュルクの肖像 しょうそう や、トルコ国旗 こっき、彼がなくなったドルマバフチェ宮殿 きゅうでん など む を向いて1分間静止 ふんかんせいし します。

歩 ある いている人々 ひとびと だけではなく、仕事 しごと 中 ちゆう の人々 ひとびと や、学校 がっこう の児童生徒 じどうせいと も路上 ろじょう に出 で てきます。上 うへ の写真 しゃしん のように、バス、電車 でんしゃ など公共交通機関 こうつうきかん も全 く て止 と まります。車 くるま の運転 うんてん をしている人々 ひとびと は車 くるま から降 お ります。トルコ と がすべて止 と まるこの光景 こうけい は圧巻 あっかん です。



こうせき  
アタテュルクの功績



日本人学校の子どもたちも、静止する人々に混ぜてもらいました。上の写真の中央にいます。  
アタテュルクの功績はトルコ共和国の建国だけではありません。アタテュルクは初代大統領に就任した後、女性への差別をなくそうとしたり、誰でも教育が受けられるようにしたり、政治と宗教を切り離そうとしたり、その他にも数々の改革を推し進めます。それらトルコが発展するために尽力した功績が、今なお人々に尊敬され、敬愛される理由となっています。

アタテュルクは57才という若さで亡くなってしまいます。死因は、働きすぎと大好きなお酒の飲みすぎだと言われています。アタテュルクが亡くなったドルマバフチェ宮殿の部屋のベッドは、トルコ国旗で覆われており、宮殿の全ての時計は亡くなった9時5分をさして止まっています。



イスタンブルマラソン 15 キロコースに挑戦しました！

今回のメルハバトルコはいかがでしたか？建国100周年というタイミングにトルコにいたことを幸運に思いました。みなさんが少しでも外国を身近に感じてくれたらうれしいです。次回もお楽しみに！

